



大すきいっぱい土の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和4年5月31日
土井首小学校
文責：校長 江原芳樹
第4号

4月と5月の登校日数は36日です。(1年生は2日少なく34日)6月と7月の登校日数も36日です。(土曜授業も含む)つまり、今日で1学期のちょうど半分が過ぎたこととなります。

子どもたちは、新しい学年学級の暮らしに慣れ、少し緊張感がなくなりかける頃です。過度の緊張は成長の妨げになりますが、適度な緊張がなければ成長を促すこともありません。1学期の後半、学習の緊張感を維持しながら、学校生活を進めていきたいと考えています。

運動会、ご参会ありがとうございました！

5月22日(日)、全校児童を一堂に会して、運動会を実施することができました。天気にも恵まれ、運動会らしい運動会ができたと思っています。

保護者の皆様には、場所を譲り合っただけの参観にご協力いただき、ありがとうございました。また、大きな声での声援ができない状況でしたが、温かい拍手をたくさんいただき、子どもたちの何よりの励みとなりました。



団長の選手宣誓



1年生児童代表



1年：ダンシング玉入れ



1・6年：1年生いらっしゃ〜い♡



2年：ハコベ ハコベ！



3年：ぐるぐるタイフ〜ン



4年：綱引いちゃった



5年：バトンをつないでGoGo5！



5・6年：土井小ソーラン2022

最終プログラム「土井小ソーラン2022」で見せてくれた高学年の姿が、下学年の憧れとなり、土井首小学校の大きなエネルギーとなることを大いに期待しています。

学習者用パソコン（タブレット）の家庭への持ち帰り

長崎市では、今年の夏休みまでに学習者用パソコン（タブレット）の家庭への持ち帰りを開始し、夏休みにはすべての子どもたちが家庭で学習者用パソコン（タブレット）を使用して学習できるようにすることを目指しています。

土井首小学校においても、昨年度から学年ごとにタブレットの持ち帰りを試験的に実施してきました。

この学習者用パソコン（タブレット）の持ち帰りには、パソコンを学びの道具として日常的に活用できる子どもを育成するねらいがあります。土井首小学校では、こうしたねらいを踏まえ、将来的には教師が課題として与える宿題ではなく、子ども自身が家庭における学習計画を立て、自分に応じた学習に取り組ませたいと考えています。

学習者用パソコン（タブレット）の家庭への持ち帰りは、そうした取組の一環でもあります。

先日もお知らせしましたが、育友会よりタブレットケースを購入していただきました。持ち帰りの際のソフトカバーとして活用できるものです。心より感謝申し上げます。

今後、具体的な持ち帰りのスケジュールが決まりましたらお知らせします。

その際、Wi-Fi環境確保のための「モバイルルータの貸出」についても、再度お知らせします。必ず確認をお願いします。

《校長室散歩道 R4 版 No. 4》

2016年3月16日、「津久井やまゆり園」で入所者が刺殺された事件は記憶に新しいと思います。事件を起こした植松被告が、報道のフラッシュの中、赤く光る眼で不吉に笑っていた姿が、強く印象に残っている人も多いと思います。

その植松被告に接見し、日頃困窮者支援に携わったきた奥田知志氏がこの事件を通して考えているコラムを目にしました。次にあるのは、その一部です。

植松君は、「障害者は親を不幸にしている。」と言いました。ですが、彼は「大変」と「不幸」の違いをわかっていません。世の中には、つらいこと、大変なことはあります。これをなくすことはできません。でも、それは不幸ではないのです。

人と人が出会うと、やはり傷つくし、大変なんです。家族といえどもそうです。でも、大変でも、人と出会うことに人の幸せはあるのです。絆は「きず」を含みます。人と人が関係を結ぼうとすると、どうしても傷つきます。でも、それを恐れているのは社会がなくなってしまう。社会というのは、健全に傷つくための仕組みなのです。

私は子どもたちに「友達と仲良くしなさい。」と教えてきました。そのことに間違いはないと確信していますが、同時に「傷つき、大変なこともあるけれど」という前提も教えていかなければならないと気付かされました。

人と人が顔を合わせ、表情や声色、雰囲気でも心情を理解できる時代ではなくなっています。画面の向こうの人とも付き合わなければならない時代です。傷つかない方法ではなく、傷ついたらどうすればよいのか、それを子どもと一緒に感じ、考えられる大人でありたいと願います。